

越境対馬 2020 参加者募集のお知らせ

対馬を知っていますか？「国境の島」と呼ばれる対馬は、釜山から約 50km、博多からは約 140km 離れた離島です。九州よりも朝鮮半島の方が近いという地理的特性から、古来より日本列島と朝鮮半島の交流の窓口としての役割を担ってきました。さらに 20 年前に釜山との間に定期航路が開設されたことで韓国からの観光客が増え続け、2018 年には人口 3 万人のこの島に年間 40 万人もの韓国人観光客が訪れる状況になりました。このことは人口減少に喘ぎ、公共事業に依存する過疎の島に多大なる経済的恩恵をもたらした一方で、文化摩擦をめぐる問題などから対馬の地域社会に大きな影響を与えました。そして 2019 年夏からの日韓関係の悪化により韓国人観光客が激減し、さらにコロナウィルスの世界的な蔓延状況により国境が閉ざされたことで、「国境離島」は岐路に立たされています。

さて、「越境対馬」はこのような興味深い島を舞台に、2015 年度から毎年行ってきたプログラムです。まず韓国の釜山に入り、そこから船で対馬に渡って滞在し、そして福岡に抜けるという「越境」の行程を通して、古代からの境界を越えた交流の経路をたどりながら、地域の視点から日韓の「国境」について考えています。

ここ数年は早稲田とも関係の深い韓国の高麗大学の学生や高校生たちと、ソウルや釜山で「歴史対話」を行っており、昨年度は一緒に対馬に渡って共同活動を行いました。

今年は夏に巡検を実施することは難しそうですが、夏～秋にかけて日韓の大学生・高校生をオンラインで結んで「対話」を行い、状況が許せば冬場に対馬への巡検を実施しようと考えています。

日本に住んでいてもほとんどの人が生涯に一度も訪れることのない対馬を、自分のフィールドにしてみませんか？

1. 活動内容

夏～秋 日韓の高校生・大学生による「オンライン対話」

対馬をめぐる日韓関係や歴史認識などのテーマで事前学習をした上で、「オンライン対話」を行う。早稲田大学や高麗大学の学生の他、日韓のいくつかの高校の生徒も参加する見込み。

冬 越境対馬の巡検の実施

※状況によって韓国を含めず対馬と福岡のみで行う可能性もある。

2. 担当教員とサポート態勢

秋山和広（生物科）、柿沼亮介（地歴科）

※他に学院出身の大学生・大学院生、他の日本の高校の教員、高麗大学の教員などがサポートする。

3. テーマの例

- ・国境地域における国際交流と「共生」のあり方
- ・国境地域の歴史と「境界」意識
- ・国境を超えた自然保護
- ・対馬の伝統文化

4. 巡検

◇実施時期

12月下旬を予定

◇巡検・調査内容の例

○ソウル・釜山

- ・高麗大学の学生との合同フィールド・ワーク、「歴史対話」

○対馬

- ・民泊：「集落」に入り、地元に触れる
- ・地元の方々のお話をうかがう（役所、博物館、観光協会、自衛官 etc.）
 - ・どのように韓国との交流がなされているか
 - ・韓国人観光客についてどのように受け止めているか
- ・比田勝港国際ターミナルにおける韓国人観光客へのアンケート調査
- ・対馬の地政学的な位置づけ
- ・伝統的な食文化

○福岡

- ・博多港国際ターミナルにおける韓国人観光客へのアンケート調査
- ・九州国立博物館



◇行程（案）

- 1 日目 東京→ソウル
- 2 日目 「歴史対話」
KTX ソウル→釜山
- 3 日目 ジェットフォイル 釜山港→比田勝港
比田勝港周辺での調査
- 4 日目 対馬でのフィールド・ワーク
- 5 日目 対馬でのフィールド・ワーク
- 6 日目 対馬でのフィールド・ワーク
- 7 日目 対馬→福岡
福岡でのフィールド・ワーク
- 8 日目 博多港国際ターミナルでの調査
博多にて解散



※行程は、参加者が希望する調査内容をもとに一緒に検討する。

◇参加費

10万円程度

※福岡からの帰りの交通費、食費、都市内移動の交通費、博物館入館料、その他雑費はこれに含まれない

5. 参加者の募集について

参加希望者は、以下の点について明記の上、7月4日（土）までにメールにて連絡してください。質問も受け付けています。

- ・ 学年・組・番号
- ・ 応募動機
- ・ 冬の巡検が実施可能な場合、参加できるか

連絡先：柿沼亮介 hanno-kackey@waseda.jp



☆自ら研究テーマを設定し、主体的に活動できる諸君の参加を待っています。